

深尾昌一郎会員 紫綬褒章受章

2008年11月3日、京都大学名誉教授・福井工業大学工学部教授の深尾昌一郎会員が紫綬褒章を受章されました。同会員の功績は、気象学、超高層物理学、電波科学の学際領域に新分野「レーダー大気物理学」を確立したもので、各種の大気レーダーを開発、地球大気中の波動や擾乱に関する優れた研究成果を挙げられました。

特に MU レーダーは、同会員の提唱により、従来の集中方式に代わる分散方式を採用、約475台のアンテナ個々に小型送受信機を分散させた革新的なシステムを世界で初めて実現させたものです。また赤道大気レーダーはインドネシア・スマトラ島の赤道直下に恒久的な研究拠点を構築したもので、これを中心とする科学研究費補助金・特定領域研究「赤道大気上下結合」を組織、その領域代表者として赤道大気の力学お

よび電磁力学研究の発展に目覚しい貢献を果たされました。また同会員は、小型レーダーを開発し、気象庁のウインドプロファイラー網「ウィングス」(総数31台)の基礎を築かれました。ウィングスは日々の気象予報業務に実用され、局地的豪雨等の予報精度向上に貢献しています。

同会員の業績は、総数400編を超える著書・論文に結実し、2003年には米国の学術情報会社トムソン ISI から、過去20年間の論文被引用総回数が地球科学部門で上位0.5%以内にあるとして「Highly Cited Researcher」の認定を受けるなど、極めて高く評価されています。また最近では文部科学省科学技術・学術審議会委員(測地学分科会長)として学術政策の面でも活躍しておられます。以上のような功績が、今回の受章に結実致しました。

(京都大学 橋口浩之)